

令和6年度 花巻市教育研究所 架け橋プログラム推進研究班 実践報告

I 研究テーマ

5歳児から小学校1年生への滑らかな接続を目指した、架け橋期における資質・能力をつなぐカリキュラムの実践を通じた研究

II ねらい

令和4年3月に、文部科学省から、「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」が示された。手引きには、架け橋プログラムのねらいとして、「幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進」することや、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の正しい理解を促し、教育方法の改善に生かしていくことができる手立てを普及」することなどがあげられている。

本研究においては、幼稚園・保育園・認定こども園・小学校の先生方が実質的な話し合いや実践を重視しながら架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）のカリキュラムについての具体的な取り組みを共有することで、資質・能力をつなぐ保育・教育の質の向上を図ることをねらいとしている。

III 研究員

花巻市立花巻小学校 教諭 松澤 春香	花巻市立太田保育園 保育士 西野 恵理
花巻市立若葉小学校 教諭 山口 賢子	大谷幼稚園 教諭 渡邊 真紀
花巻市立八幡小学校 教諭 松木田 篤子	島こども園 保育教諭 大木 真由美

IV 研究の方向性

	1年次	2年次
ゴール	<ul style="list-style-type: none"> 本市の課題を踏まえ、架け橋期における資質・能力をつなぐカリキュラムの保育・授業実践を行い、成果と課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次の成果と課題を踏まえるとともに、共通の視点を明確にして保育実践・授業実践を行い、共通理解したことを、カリキュラムとして可視化する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についての、連携の手がかりとしての共通理解 就学前教育・保育施設における、小学校以降の生活や学習を見通した保育実践 小学校における、園での遊びや生活を通した育ちや学びを踏まえた授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> 就学前教育・保育施設における、小学校以降の生活や学習を見通した保育実践 小学校における、園での遊びや生活を通した資質・能力の育ちを踏まえた授業実践 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点とした協議 実践をもとにしたカリキュラムの可視化

V 実践について

期待する子ども像	「自分の思いを言葉で伝えたり相手の話に興味をもって聞いたりしながら主体的に学ぶ（遊ぶ）子ども」
共通の視点	<ul style="list-style-type: none"> 「言葉による伝え合い」（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿） 環境構成(園)や環境づくり(小) ・先生の関わり

- V-a 花巻市立太田保育園 保育士 西野 恵理
- V-b 大谷幼稚園 教諭 渡邊 真紀
- V-c 島こども園 保育教諭 大木 真由美
- V-d 花巻市立花巻小学校 教諭 松澤 春香
- V-e 花巻市立八幡小学校 教諭 松木田 篤子
- V-f 花巻市立若葉小学校 教諭 山口 賢子

1 活動

身近な自然に関わって遊ぶことを楽しむ。




2 これまでの育ち

夏まつりでは興味があるおばけを題材にし、お化け屋敷を作ることになった。自分が知っているおばけについて話し、お面や衣装が必要であるなど考えを話そうとする。また、運動会に向けての団体競技ではチームごとに走順を決め、どうしたら勝てるのか作戦会議を行い、伝え合いの場を多く設けたことで自分の思いを伝えようとする姿が増えた。しかし、友達の話に興味を持って聞いたり、自分たちでトラブルを解決するために話し合ったりなど聞こうとする意識はまだ薄い。

3 架け橋期の保育に当たって

- ・子ども同士が思いを伝えたり聞いたりできるよう、保育者が代弁し、言葉を補い子ども同士の関わりを促していく。
- ・子どもが発した言葉を復唱し子どもに返していくことで、子どもが自ら考え、自分の考えや気持ちを整理し言葉で表現できるようにしていく。

4 展開

子どもの姿	指導上の留意点 (○先生の関わり ◇環境づくり)
<p>・身近な材料や今までの経験した遊びを取り入れ、オリジナルの虫かごを作ろうとする。</p> <p>・年長児が遊びの中で経験していた三つ編みを生かし、虫かごの持ち手にする。</p> <p>・戸外で製作をしたことにより、作った子からすぐに虫を捕まえに行き、虫への関心が高まっている。</p> <p>これ何だろう?</p> <p>セミの抜け殻！ 中身がないよ！！</p> <p>図鑑で調べてみよう</p> <p>なんでだろう？ アリが食べたんじゃない？</p>   	<p>◇見本の虫かごを数日前から保育室に置き、子どもの目につくようにし、興味や関心を高めておく。</p> <p>○自分だけの力で作り上げることが難しい場合は保育者が手伝うだけでなく、「三つ編みはAちゃんが上手だよ」と、友達と協力して作れるよう友達や異年齢児との関わりを促していく。</p> <p>◇虫を見つけた時に、嬉しい気持ち・好奇心が途切れず戸外ですぐに調べることができるようゴザや図鑑を用意することで、友達とやりとりが生まれるようにする。</p> <p>○子どもの発見や不思議に思ったことに共感し、聞いてもらえた喜びを感じられるようにする。</p>

5 指導上のポイント

- ・保育者や友達と気軽に言葉を交わすことができる雰囲気や関係を築くことで、子どもが安心して思いを表せるようにする。
- ・子ども同士をつなぐ声かけをし、友達との関わりが増えるようにする。
- ・子どもたち同士で自然と関わりが生まれるような場や、子どもが自ら考えたり友達のイメージを理解したりできるような物を意図的に用意する。

1 活動名 「お祭りごっこ」～友だちと考えを出し合いながら遊びを楽しむ～

2 これまでの育ち(「言葉による伝え合い」に関わる背景)

物静かで自分の思いを内に秘める子が多く、言葉でうまく伝えられない子もいる。全体的にマイペースで、言葉への関心が薄い子が多い。教師は一人一人の言葉を引き出しながら相手に伝えることができるよう関わってきたことで、男児はいきいきと自分の気持ちや思いを伝えることができるようになった。しかし、自分の思いを話し出す子が目立ってきたため、その都度教師が言葉を聞くことの大切さを知らせていった。今まで聞き流していた子もメリハリをつけ、話に耳を傾ける機会が増えていった。地域の文化である花巻まつりを体験する中で、お祭りごっこをやってみたいという声が子どもたちから飛び交うようになると、今まで大人しい女兒たちも制作方法や意見等自由に発信し、お店屋さんごっこへと気持ちが盛り上がっていった。

3 架け橋期の保育に当たって

- ・教師に受け止めてもらえるという安心感の下で、一人一人が自分の考えを出し合えるように配慮する。制作へのイメージが湧かない子への支援として教師が子どもの考えや言葉を引き出し、具体的なイメージを持ってお祭りごっこの制作に取り組めるようにする。
- ・グループでの話し合いに困っている時は、子どもたちがどのようにしたいのか仲立ちし、自分たちで考えたり決めたりしていく事ができるように配慮する。
- ・今日の振り返りをする事で、クラス全体の考えを共有しあい、次回への目標を明確にして取り組めるようにする。

4 展開 (「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」がみられた子どもの姿)

子どもの姿	指導上の留意点(○先生の関わり◇環境構成)
<p>・4 グループに分かれてお店屋さんの準備をする。</p> <p>・お客さんが大人2人しか来なくて困っている。</p> <p>子どもたちが自分</p> <p>1 お客さん来ないね…。</p> <p>(年中さんの教室に向かって)</p> <p>6 お店屋さんしての来ててください!</p> <p>状況に応じて表現方法を工夫し相手に伝える経験</p> <p>1 いらっしゃいませー! (お客さん、来てくれないな…)</p> <p>お客さん(年中さん)が来てくれた!</p> <p>お互いの考えを尊重し、認め合う経験</p>	<p>◇やり取りの必要性が生まれる活動の場の設定(唐揚げ、チョコバナナ、わたあめ、ジュース屋さん)</p> <p>○お客さん呼び寄せるためにはどうしたら良いのか子どもたちの考えを引き出すように関わる。</p> <p>教師</p> <p>2 どうしようか…</p> <p>3 みんなどうする?桃組も赤組も外で遊んでいるし…</p> <p>4 廊下や教室にいないかな?</p> <p>5 いたよ!呼んでくるね!!</p> <p>○教師がさりげなく廊下へ出て、他のクラスの子がいないか意識が向くようにし、自分達でお客さんと呼ぼうとする思いを高める。</p> <p>2 このチョコバナナ、トッピング付きです! (お客さんが買ってくれた!)はい、2つ!</p>
<p>(活動の振り返り)</p> <p>・今日の活動で楽しかったこと、嬉しかったことを代表の子が発表し、最後まで友だちの話を聞く。</p> <p>1 唐揚げが売れて良かったです。</p>	<p>◇他のクラスのお客さんに来てもらうことでお店屋さんごっこのやり取りがより本物らしくなるようにする。</p> <p>◇振り返りの時間を設ける。</p> <p>教師</p> <p>2 今度は誰に来てもらいたいですか?</p> <p>○子どもたちの発表を最後まで聞き、言葉に詰まる子には、個々に応じて言葉を補っていく。</p>

5 指導上のポイント

安心した環境の下で自分の思いを相手に伝えていく経験を重ねていくことは、友だちに自分の考えを伝えたい、作り方を知らせたいという思いを膨らませていき、言葉で伝え合う姿を高めていくと感じた。しかし、言葉での伝え方には個人差があるため、その子にあわせ、話し合いができるように援助していくことが必要である。振り返りの時間を設けていくことでお互いを尊重し、認めあうことが自信に繋がり、言葉による伝え合いの嬉しさにつながっていくと感じた。

1 活動名 【お店を作ろう】

イメージを膨らませながら、友達と一緒に遊びを発展させていくおもしろさを感じる。




2 これまでの育ち（「言葉による伝え合い」に関わる背景）

相手の気持ち（話）を聞くことよりも、自分の思いだけを一方的に話すことが多く、気持ちのすれ違いや勘違いからトラブルが多かった。その都度、保育者が間に入りお互いの気持ちを聞き出し、また、うまく言葉にできない思いを代弁し“気持ち”と“言葉”を結びつけながら関わることで言葉の種類も増え、少しずつ自分の思いや考えを言葉で相手に伝えられるようになってきている。

3 架け橋期の保育に当たって

- ・お店にはどんなものが売っているのか、体験保育で実際に買い物をした時のことや普段の買い物時のことを思い出しながら、さらにイメージしやすいよう具体的に様子を言葉やイラストにして伝えることで、お店屋さんの雰囲気をクラス全体で共有し製作を楽しめるようにする。
- ・友達と相談したり作ったものを見せ合ったりすることで、具体的に想像ができお店屋さんごっこへの期待が膨らんで楽しみながら取り組めるようにする。

4 展開（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見られた子どもの姿）

子どもの姿	指導上の留意点（○先生の関わり・◇環境構成）
<p>・どんなお店にしようか、お店に売っている物は何かを言葉に出したり友達の話の聞いたりすることで、どんどん作る意欲がわく。</p>  <p>T: 上手だね～</p>  <p>・ハサミやガムテープなど自由に使い思い切り製作を楽しむ。</p>  <p>どうしたらくっつくかなあ？</p> <p>・友達の工作物を見て「どう作るの？」と聞いたり、「上手だね」などと褒めあったりしながらどんどんイメージを膨らませる。</p> <p>・考えながら作ってみるが、思い通りに作れずに納得いかない様子の子もいる。試行錯誤しながら最後まで自分で作りきったことが自信となり、いろいろな人に見せ喜びをあらわす。</p>	<p>◇様々な素材を多めに用意する。どこに何があるのか見てわかるように、種類ごとに分けて配置する。</p> <p>◇話し合いの場…向かい合う事で友達の顔が見え、リラックスしながら自然に話せる雰囲気を作る。</p> <p>○子どもと一緒に話し合いに参加し様子を見守る。</p> <p>Q: お店にはどんな物があるの？</p> <p>○つまずいた時には助言などをし、想いをつなぐ。</p> <p>○困っている感が見られた時にはさりげなく手伝う。</p> <p>T: 何か困ってるの？</p> <p>○“自分でできた”という気持ちをたくさん経験できるよう、手を出しすぎないよう気を付ける。また、わからないことがあった時には、「○○ちゃんさっき作っていたよ、聞いておいで」と伝えたりしながら、友達と関わるきっかけを作る。</p> <p>○「それいいね」「いい考えだね」などと肯定的な声かけをし意欲につなげていく。</p> <p>◇うまく切れないなあ。</p> <p>○保育者の想いを話すのではなく、子どもたちの会話を拾いながらさりげなく声をかけ、その場の雰囲気を一緒に楽しみながら見守る。</p>

5 指導上のポイント

- ・ハサミやのりなど道具の使い方を、これまでも子どもたちと話し合いながら進めてきた。段階を経て使い始めたこともあり、製作時にはハサミなどの道具を安全に使うことを意識する姿が見られた。いろいろな想いを友達に話したい、聞いてほしいという思いが強く、それが一方的にならないよう保育者が間に入り子ども同士で思いを共有できるように援助していった。
- ・友達との会話からアイデアがひらめいたり、褒められたことでやる気が出たり喜ぶ様子を見て“言葉を伝えあうこと”の大切さを改めて感じた。当番活動や話し合いタイムなど、自然に話し合えるような雰囲気づくりをしていき、“言葉での伝え合い”をする経験を積み重ねていく。

1 実施教科・単元

特別活動 学級活動 (1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
 議題 「はなまるたいそうを かんがえよう」

2 児童について (「言葉による伝え合い」に関わる背景)



本学級の児童は、友達の考えを受けて自分の考えを伝えたり、学級の議題を自分の課題として捉えて話し合いに参加したりすることはまだ難しい。全員の気持ちが途切れずに活動できるように、単位時間の中に様々な活動を細かく区切りながら取り入れ、伝え合う活動を繰り返してきた。それにより、課題を自分事として捉え、自分の思いを言葉にのせて考えを伝えることができるようになってきたところである。

3 架け橋期の指導にあたって

本時では、児童の「話し合いたい」の気持ちから始まり、「また、話し合いたい」の気持ちで終わるように、授業の構成を考えた。議題を児童の思いから取り上げ、準備や進行も児童の力で行えるように環境づくりを行うことで、意欲を高め主体的な態度を促した。「まとめる」の場面では、教師の関わりを見守りから支援へと切り替え、全ての意見を取り入れる合意形成へと導くようにした。これにより、自分の考えが受け入れられ、認められているという思いをもたせるとともに、次への意欲へとつなげるようにした。

この時期の児童の学びの特徴を踏まえ、本時では、実際に体を動かす活動をしながらか話し合いを行った。伝えたいような体験をすることで、自然と言葉があふれ、対話が進み始めるきっかけとなった。さらに、少人数での交流場面を多く設定し、安心して自分の考えを伝えたり聞いたりできる場の設定を工夫することで、気軽に言葉を交わすことのできる雰囲気や関係づくりにつなげるようにした。

4 展開 (「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた学習活動)

学習活動	指導上の留意点 (○先生の関わり ◇環境づくり)
1 議題を決める (事前の活動)	◇サークルトークを行う。 ○児童の発言から、
2 話し合い (1) 出し合う	話し合いたいという思いをもち、 話し合う必要性を感じられるような議題 を取り上げる。
(2) 比べ合う	◇ICTの活用や板書の工夫で、話し合いの内容を視覚的に共有できるようにする。
(3) まとめる	○体を動かす体験をしながら考えてよいことを伝える。 ◇少人数で話し合う場面を多く設定する。
	○それぞれの班のお気に入りの場所で相談していいことを伝える。 ○見守りから支援へと切り替え、全員が納得するような話し合いに向けて、話し合う内容を焦点化し合意形成へと導く。
<div data-bbox="177 1697 496 1832" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 全部入れると多いね。どうしよう。 </div>	<div data-bbox="517 1697 895 1897" style="display: inline-block;">  </div> <div data-bbox="900 1697 1171 1897" style="display: inline-block;">  </div> <div data-bbox="1192 1720 1481 1897" style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 回るとジャンプを一緒にすればいいんじゃない。 </div>

5 指導上のポイント

- ・児童が思いや願いをもつことができるような環境づくりと、その思いを尊重するような教師の見守りと必要に応じた支援をする。
- ・架け橋期の児童の実態を捉え、その特性を受け入れて生かすことができるような環境づくりを行う。

1 実施教科・単元

生活科 「いきものなかよし」～むしをさがそう～

2 児童について（「言葉による伝え合い」に関わる背景）

本学級の児童は、授業の中で発言する場面ではなくても話し出してしまったり、相手の思いや考えを聞かず自分の思いを押し通そうとしたりすることが多い。また、思いはもっているが積極的に話すことができない児童もいる。本単元に関わっては、学習に入る前から虫に興味を示し、校庭や校舎の中で見つけた虫のことを知らせてくれる児童が多かった。

3 架け橋期の指導に当たって

園での虫探しの経験を想起させることによって活動への興味関心を引き出し、児童の思いや願いを生かした単元構成を行う。その中で自分の思いや考えを伝え合う様々な場面を設定し、スムーズに伝えられるようにする。

本時では、はじめに虫がいる場所の予想図を振り返ったり、前時で虫探しをしたときの様子をモニターで提示したりして、前時までの活動を共有させる。次に、自分が見つけた虫を描いた絵カードをペアで紹介し合い、みんなにも知らせたいという意欲をもたせる。さらに全体の場で一人ずつ見つけた虫と場所を発表し、校庭の絵地図に絵カードを貼ることで学習の気付きを全体で共有する。最後に本時の振り返りをワークシートに記入し、次時は別の虫を見つれたり違う場所で虫を探したりするなど、あらたな視点で虫探しを試みたいという意欲をもたせる。

4 展開（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた学習活動）

学習活動	指導上の留意点（○先生の関わり ◇環境づくり）
<p>1 前時は虫探しをしたことを想起する。</p>	<p>◇虫がいる場所の予想図を振り返ったり、虫探しをしたときの様子を提示したりし、前時までの活動を共有させる。 ○新たな気付きを促す発問をする。</p>
<p>2 見つけた虫を紹介する。 ・ペアで話す。</p>	<p>◇絵カードをもとにペアで話し、みんなにも知らせたいという意欲をもたせる。</p>
<p>・全体の場で一人ずつ発表する。</p>	<p>◇発表後、校庭の絵地図に絵カードを貼り、見つけた虫や場所について共有する。 ○虫の種類によって育つ場所が異なることに気付けるようにさせる。</p>
<p>3 本時の振り返りをする。</p>	<p>◇虫の名前と場所を紹介できたか、次に見つけたい虫を考えることができたかワークシートに記入し、振り返らせる。</p>

T これは、なんだろう？

ハサミムシじゃない？



○○くんが見つけた虫だ！

ぼくも見つけたよ。



トンボを見つけたよ。



学童のそばで、バッタを見つけました。

プールのところについている線のところで、オニヤンマとトンボを見たいです。

5 指導上のポイント

- ・園での経験をふまえ、児童の思いや願いをもとにした単元構成を考える。
- ・何気ない児童の言葉や行動から、児童の気付きや思いをとらえる。

1 就学前の教育相談、園からの引き継ぎ等による個々の実態を踏まえた単元の設定

就学前の教育相談や園からの引き継ぎの情報、園を訪問し遊びや活動から得た子ども一人一人の情報を参考にしながら、児童の興味・関心、思いを引き出し、児童の思いを受け止めることを大事にした入門期。

好きな物を言葉で表現することが難しいが、手遊び歌を喜んで聞き、教師の真似をして遊ぶA児。幼児期からアイドル曲が好きで遊びの中でマイクを作り、ステージで熱唱し、入学後も「歌いたい」と伝えるB児。

「これ、おとさきたい」と言いながらダンスを見せてくれたが、言葉が不明瞭で、言いたことを教師側が理解しきれないことも多くあったが、繰り返しダンスを見せてくれるC児。これらの様子から、音楽の時間や頑張ったときのご褒美タイムにライブごっこをしてきた。その中で、「お客さんに見せたい」という言葉がB児から出てきた。そこで、自分の好きな歌やダンスの発表をとおして、ライブに必要なことを考えたり、実際に準備をしたり、発表の順番を待ったりすることは、本学級の児童にとって他の学習と関連を図りながら主体的に活動し、個々の課題解決に向けて取り組めると考え、生活単元学習に本単元を設定した。

2 実施教科・単元

生活単元学習「ライブごっこをしよう」

3 児童について

A児は言語の表出は少なく、単語が中心であるが、体を動かすことが好きで、ダンスや手遊び歌、童謡を好む。B児は、就学前からライブごっこをし、お客さんに披露したい思いを強くもっていたが、体調の問題により遊び込むことが難しかった。友達と折り合いをつける経験が少なく、自分の思い通りにものごとを進めようとするところがあるが、本単元に意欲的である。C児は、言葉が不明瞭で自分の思いを上手く表現できないところがあるが、歌やダンスが好きで、園でしたダンスや好きな歌を披露し、教師と遊ぶことを好む。

4 展開

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点（支援の手立て）
導入 10分	1 学習の見通しをもつ。 2 学習課題を確認する。 順番を守って、楽しくライブをしよう。	・活動の流れを示し、見通しがもてるようにする。
展開 30分	3 ライブのチケットを確認する。 4 ライブをする。 事前に決めておいた順番で歌やダンスを発表する。	・スタンプを用意し、ライブに来たお客さんとあいさつをし、ライブの意欲を高める。 ・ライブ発表を楽しめるよう押しうちわやペンライトで応援をして盛り上げる。 ・緊張で動けない様子が見られたら、用意しておいたVTRを発表の代わりとする。
終末 5分	5 本時を振り返る。 (1) 課題について振り返りをする。 ・順番を守れたか。 ・楽しくライブができたか。 (2) 感想を話す。 6 次時の確認をする。	・うまくいかなかったところだけではなく、頑張ったことやよかったことを振り返り次の活動への意欲につなげる。 ・うまく話せない児童には挙手や返事で答えられるようにする。

5 指導上のポイント

- ・子どもの発達と学びの連続性を踏まえるためにも、園での遊びをとおした学びを小学校教員が知る。
- ・園からの引き継ぎで得た情報を生かし、児童の思いや願いを引き出し、受け止めながら自己表現を促し、願いを実現していく単元設定を行う。
- ・教師も一緒に活動する仲間として、活動を盛り上げながら、その子なりの表現を認める。
- ・振り返りでは、うまく言葉にならない児童の気持ちを教師が代弁したり補ったりしながら、児童の活動や言葉を価値付け、言葉で表現する楽しさを味わえるようにし、次の活動や学習活動への意欲を喚起する。

VI 実践・結果の分析と考察（教育研究所から）

「幼保小の架け橋プログラム」の実施においては、義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間を生涯にわたる学びや生活の基盤を作る重要な時期（架け橋期）と捉え、「子共の成長を切れ目なく支える観点からは、幼保小の円滑な接続の発達の段階を踏まえ、一人一人の多様性0～18歳の学びの連続性に配慮しつつ、教育の内容や方法を工夫することが重要」であると示されている。

本研究班においては、期待する子ども像を、「自分の思いを言葉で伝えたり相手の話に興味をもって聞いたりしながら主体的に学ぶ（遊ぶ）子ども」とし、園と小学校の共通の視点を「言葉による伝え合い（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）」として研究を進め、幼稚園・保育園・認定こども園・小学校から、6名の先生方の実践及び報告をいただくことができた。感謝申し上げたい。

太田保育園・西野恵理先生の実践では、子供が自分の思いの実現に向けて自分なりに考えを巡らせたり心を動かされる体験をしたりできるよう、子供の興味関心を予想しながら環境を構成することの大切さを示していただいた。やり取りが生まれるよう意図的に構成された環境の中で、捕まえた虫の特徴を見つけて種類や名前を図鑑と照らし合わせながら話し合ったり、自分の作りたいものを完成させるために周りの友達や先生に相談したりなど、5歳児の子供の試行錯誤する経験や伝えたいような経験、周りの友達や先生とのやり取り等を通して、言葉による伝え合いの姿はさらに高まっていく。

大谷幼稚園・渡邊真紀先生の実践では、子供が、何でも受け止めてもらえる、という安心感をもち、思いや考えを表現することができる雰囲気づくりや先生の関わり大切さを再認識させていただいた。子供の思いを共感的に受け止め、言葉を引き出したり代弁したりなど、日々の丁寧な関わりが言葉による伝え合いの土台となり、自分の言葉が伝わる喜びややり取りの楽しさにつながっていく。また、活動を振り返る場を設定することにより、子供が自分なりの言葉で思いを伝えたり、友達の思いに気付いたりする経験を重ねることの大切さにも触れていただいた。

島こども園・大木真由美先生の実践からは、言葉の豊かさを育む生活や遊びの環境、保育者の援助の在り方についての成果を取り上げたい。絵本の読み聞かせや当番活動を通して、豊かな言葉や表現に触れたり、相手や状況に応じて言葉の使い方を変えたりする経験を重ねることにより、経験したことや考えたことを相手に分かるように工夫して伝えようとする姿につながっていく。また、言葉をかけすぎずに子供の活動を見守る保育者の適切な援助や、はさみやクレヨンの使い方等を子供達と一緒に話し合い、自分たちの言葉で必要感をもってルールを考える経験を大切にしていることも参考になるものである。

花巻小学校・松澤春香先生の実践では、架け橋期の子供の発達を踏まえた学習活動の工夫と、子供が思いや願いをもって学習に向かうこと大切さを示していただいた。子供の発言から議題を取り上げることで、一人一人が自分達の生活を良くしていくという目的をもち最後まで主体的に話し合いを進めている。また、実際に身体を動かし体験することで感じたり考えたりする子供の発達段階を考慮した活動の流れや、リラックスして話し合える場の設定なども架け橋期の指導の重要なポイントであり、子供が幼児期に身に付けてきた力を発揮できるような工夫がちりばめられている。

八幡小学校・松木田篤子先生の実践からは、幼児期の経験や子供の興味・関心を踏まえた単元構成の工夫と、子供理解の重要性について再確認させていただいた。園での経験を問いかけたり園での経験が生かされたりする学習活動と、表現する場や時間を適切に設定することによって、子供は思いや願いをもちながら学習を進め、自分なりの言葉で伝えようとする姿につながっていく。また、子共が伸び伸びと活動し表現する姿から、目に見える行動だけでなくその裏側にある思いを捉え、一人一人に応じて丁寧に関わる子供理解の大切さについても示していただいた。

若葉小学校・山口賢子先生には、就学時の教育相談や園からの引継ぎを生かし、個々の発達を踏まえた支援の在り方についての実践を行っていただいた。特別な配慮を要する子供の様子について、就学前の保育参観を行い、生活や遊びの中でどんなことに興味・関心を向けているのかということや個々の発達段階を把握して入学後の適切な支援に結び付けている。また、子供の思いや願いを生かすとともに個々の発達に必要な経験ができるよう単元を構成し、一人一人の課題に応じてきめ細やかに支援することや、周りの様々な人との関わりが自然に生まれるような環境づくりをすることの大切さも再認識させていただいた。

Ⅶ 実践のまとめ

本研究では、期待する子ども像を、「自分の思いを言葉で伝えたり相手の話に興味をもって聞いたりしながら主体的に学ぶ（遊ぶ）子ども」とし、「言葉による伝え合い（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）」を共通の視点として子供の姿を捉えることにより、子供が園での生活や遊びを通してどのような経験をし、どのような力を身に付けているのか、身に付けた力を小学校のどんな場面で発揮しているのかということについて、園と小学校の先生方が共通理解することができた。また、子供の資質・能力のつながりを意識することで、小学校以降を見通した園における保育改善、園での経験を踏まえた小学校における授業改善が可能となることも確認することができた。

実践及び協議を通して共通理解した架け橋期にふさわしい活動の在り方や、教育方法の改善の視点などについて、本研究班の「架け橋期のカリキュラム」として可視化できたことも大きな成果である。架け橋期のカリキュラムを踏まえながら教育課程編成や指導計画作成を行うことで、日々の保育・教育改善に生かしていくことが期待される。

Ⅷ 引用文献および参考文献

- ・ 保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月 23 日 厚生労働省編 株式会社フレーベル館
- ・ 幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月 23 日 著作権保有 文部科学省 株式会社フレーベル館
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成 30 年 3 月 29 日
著作権保有 内閣府・文部科学省・厚生労働省 株式会社フレーベル館
- ・ 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 生活編 平成 29 年 7 月 文部科学省
- ・ 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）令和 4 年 3 月 31 日 文部科学省
- ・ いわて就学前教育振興プログラム 令和 5 年 3 月 岩手県教育委員会事務局学校教育室
いわて幼児教育センター

【参考】「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

(1) 健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。